

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
人文学研究科・文学部・外国語学部	学生アンケート・意見交換	随時	令和6年度	令和7年度	アンケートならびに意見交換を通じて意見・要望等を把握し、今後の教務計画の改善・施設整備の検討を行う。	アンケート用紙による意見・感想、意見交換会の聞き取りによる聴取。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	要望・意見について部局内執行部において問題点や改善点を精査し、施策の見直しや今後の活動に反映させる。	在学生
法学研究科・法学部	学生アンケート	年2回	令和6年度	令和7年度	学生の意見等を把握し、教務事項の評価・改善を行ったため	学生に対してWEBを通じて「授業評価アンケート」を実施する際に、授業に関する質問を行う以外に、大学一般に関する要望を自由記述で聴取している。	○	-	-	-	-	-	-	学生アンケート結果(教務委員長がWEB上で確認するほか、全体結果は教務委員会、教授会でも回覧)	-	学生アンケートの結果については、教務委員長がWEB上で確認するほか、教務委員会でも全体の結果を確認して対応を検討し、適宜、改善・向上を実施している。教授会でも全体の結果を確認し、教務委員長から教務委員会の対応について説明している。対応状況は、教務委員会にて適宜、確認している。	在学生
理学研究科・理学部	能動性懇談会	年3~4回	令和6年度	令和7年度	学生と教員が一体となつて議論を行い、学生と教員の両方へフィードバックすることで授業や学生生活の充実につなげるため	対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催している。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	学生から出た意見について、改善が必要な事項があれば、随時対応している。	在学生/教員
理学研究科・理学部	理学教育カリキュラム反省会(R2年度までは理学研究科・理学部学務評価委員会と合同で実施)	年1回	令和6年度	令和7年度	カリキュラムの内容や実施方法等に関する教員の意見を収集することにより、カリキュラムの改善に役立てるため	オンライン形式で開催している。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	理学教育カリキュラム反省会にてカリキュラムの問題点や効果的な取り組みを構成員と共に共有している。	教員
理学研究科・理学部	理学懇話会	年1回	令和6年度	令和7年度	理学懇話会は、理学研究科・理学部が産業界等外部に対し、教育・研究等の情報を積極的に開示し、研究成果の企業等における利用または共同研究等、産学連携の糸口を探ることとともに、教育・研究等に対する要望・提言及び第三者の立場からの評価を受け、理学研究科・理学部の教育研究水準の向上及び組織の活性化に資することを目的とする。	学外委員をお招きして年1回対面開催する。	○	○	○	○	○	○	-	理学懇話会のご意見 理学懇話会アンケート結果	研究科のHPにて公表している。 「情報公開」→「理学懇話会」 https://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/outline/openinformation/	結果は理学研究科・理学部理学懇話会運営委員会で確認し、研究科HPで公表するとともに対応が必要な事項があれば、担当教員を指名して改善・向上を実施している。また、対応状況は次回の理学懇話会にて進捗を確認している。	卒業生/企業関係者
医学系研究科・医学部	産学連携・クロスイノベーションイニシアチブ全体会議の開催(年内に概ね1~2回程度開催)	年1~2回	令和6年度	令和7年度	産学連携・クロスイノベーションイニシアチブのディレクター、サブディレクター、オフィサー等の構成員と連携機関(協働機関・包括連携協定締結機関)が一室に会し、産学連携活動・主催イベント等の取組、運営について意見交換を行う。	会議を開催して、直接、意見交換を行う。	-	○	○	○	○	○	○	-	-	連携機関からの要望・意見を取り纏め、定例ミーティングにて検討。改善できるべき事項は、活動に反映	教員/職員/企業関係者/自治体
医学系研究科・医学部	連携機関への産学連携実態調査アンケートの実施及びヒアリングの実施	3~4年に1回	令和3年度	令和7年度	連携機関個別に産学連携活動への要望等を聴取し、より一層の連携強化を図る。	メールにて連携機関全機関にアンケート調査を依頼の上、アンケート用紙の提出により意見・要望等を聴取する。回答内容に基づき、必要に応じて、個別ヒアリングの実施、または、クロスイノベーションアセントリ等の産学連携イベントのディスカッション等において意見交換を行う。	-	○	○	-	○	○	-	-	-	連携機関からの要望・意見を取り纏め、定例ミーティングにて検討。改善できるべき事項は、活動に反映	企業関係者/自治体
基礎工学研究科・基礎工学部	教員業績評価における自己活動評価書に基づいた教員面談	毎年度(ただし、令和6年度は実施できなかった)	令和5年度	令和7年度	各教員が行っている教育・研究・社会貢献、および管理運営などの様々な活動について、現状を把握し、それに基づいて大学および研究科の更なる発展に向けて共に取り組むべき課題を考え、問題意識を共有することで、教員の教育・研究活動の活性化に資する改善や環境整備の実効性を高めるため	毎年度提出される「自己活動評価書」を確認し、若手教員を中心に研究科長が選定した教員と直接意見交換を行う	○	○	○	○	○	○	-	-	-	教員からの意見は、教育・研究活動の活性化に資する改善や環境整備に関する参考としている	教員

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
情報科学研究科	研究科長と若手教員の個別面談	毎年	令和6年度	令和7年度	若手教員の教育・研究等の諸活動の状況や研究科に対する要望等について把握し、研究科の各施策の強化・改善につなげため。	研究科長が、面談を希望する准教授、助教と直接意見交換を行う(例年4割程度が希望)	○	○	○	○	○	-	-	-	-	教員からの意見については、内容に応じ、広報・涉外戦略企画室、研究戦略企画室、産学連携企画室、国際戦略企画室、執行部会議等において、研究科の施策検討時の参考としている。	教員
情報科学研究科	高校等訪問	年10回前後	令和6年度	令和7年度	高等学校や高等専門学校の状況・要望等を把握し、受験者数増加のための施策に反映させる	近隣の高等学校や、希望する高等学校・高等専門学校を訪問し、研究科紹介や出前講義を行う際に、教員や生徒からの要望を聴取する。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	高校等教員・生徒からの要望等については、広報・涉外戦略企画室会議において、受験者数増加のための施策検討時の参考としている。	高校等教育関係者
生命機能研究科	研究方針と研究環境についての学生からの意見聴取	年2回	令和6年度	令和7年度	学生の研究進捗状況と研究環境について意見書を提出してもらい、学生の研究の進展を促すとともに、今後の研究科運営の改善を行うため	学生から意見聴取	○	-	-	-	-	-	-	意見書については教務委員長が確認した後、個別の案件については研究科で対処	-	学生アンケートの結果については、教務委員長がWEB上で確認するほか、教務委員会でも全体の結果を確認して対応を検討し、適宜、改善・向上を実施している。教授会でも全体の結果を確認し、教務委員長から教務委員会の対応について説明している。対応状況は、教務委員会にて適宜、確認している。	在学生
生命機能研究科	一部の教員に対して教員業績評価における自己活動評価書に基づいた面談	年1回	令和6年度	令和7年度	上司となる教授が定年、あるいは定年が近い教員の行っている教育、研究、社会貢献、および管理運営などの様々な活動について、現状を把握し、研究科の更なる発展に向けて共に取り組むべき課題と共に考え、今後の研究・教育活動に活かしてもらうため	毎年度提出される「自己活動評価書」を確認し、研究科長、副研究科長、評議員と面談して、直接意見交換を行う。	○	○	○	○	○	-	-	-	-	当該教員の活発な研究・教育活動に資するほか、教員からの意見は、研究科内で参考として、より良い研究環境整備に活かしている。	教員
高等司法研究科	研究科アンケート	年2回	令和6年度	令和7年度	・学生の意見等を把握し、教務事項全般の評価・改善を行うため	・学生に対して、期末試験時に紙のアンケートに記載させる。	○	-	-	-	-	-	-	アンケート結果(集計結果をFD・教育企画委員会で確認するとともに、運営委員会及び教授会でも共有)	-	アンケート結果については、FD・教育企画委員会で確認した上で、研究科として対応すべき事項を検討して運営委員会及び教授会に報告し、適宜、改善・向上を実施している。また、対応状況はFD・教育企画委員会及び運営委員会で進捗を確認している。	在学生
附属図書館	利用者アンケート	必要に応じて実施	令和5年度	未定	・附属図書館利用者のニーズを把握し、今後の図書館運営や開館時間等を検討する材料とするため	・附属図書館利用者のうち大阪大学構成員を対象としたアンケート。紙の調査票及びWebアンケートフォームを使用しアンケートを実施。日本語及び英語に対応	○	○	-	○	○	-	-	2023年度大阪大学附属図書館利用者アンケート報告書	-	・附属図書館Webサイトにて公表している。 https://www.library.osaka-u.ac.jp/pr/enquete/ ・京阪神3大学図書館における共通設問アンケートであり、3大学比較分析結果を踏まえ、当館の優位点のさらなる向上、他大学のグッドプラクティスを本学の改善に取り入れていく予定。	在学生/教員/職員
附属図書館	箕面市立船場図書館利用者アンケート	通年	令和6年度	令和7年度	・大阪大学は箕面市立船場図書館の指定管理者であり、本調査は箕面市における指定管理者評価の一環として、毎年行うこととなっている。 ・箕面市が指定管理者による施設運営が適正に行われているかどうかを、利用者目線に立った評価をすることで、利用者にとって、より使いやすい施設にすることを目的としている。 ・本アンケートは利用者の傾向分析をするためのもの	・箕面市立船場図書館利用者に対して、紙の調査票及びWebアンケートフォームを使用しアンケートを実施。日本語に対応	-	-	○	○	○	-	市民の教育・研究を支援すること。	(単体で公表するものではないため名称無し)	-	「箕面市立船場図書館の評価に係る合議」の検討資料とする。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
附属図書館	学生と館長・副館長との懇談会	年1回以上	令和6年度	令和7年度	・本学学生のニーズを把握し、今後の図書館運営や開館時間等を検討する材料とするため ・本学学生が図書館利用について日頃感じていること、これから図書館への期待等を館長・副館長に直接伝えられる機会を提供するため	・附属図書館利用者のうち大阪大学を学生を対象とした館長・副館長との懇談会。 ・オンライン(Webexミーティング)開催。 ・参加希望学生を募り、事前質問を受け付ける。	○	○	-	○	○	-		2024年度学生と館長との懇談会実施報告	附属図書館Webサイトにて公表している。 https://www.library.osaka-u.ac.jp/gakunai/kondan/	・懇談会の内容を部局構成員に周知するとともに、館長・副館長会議等に報告し、図書館サービス方針等に反映している。 ・継続して本学学生のニーズに対応するため、懇談会開催を定例化した。	在学生
附属図書館	「附属図書館へのご意見・ご要望について」投稿Webフォーム	通年	令和6年度	令和7年度	・本学構成員のニーズを把握し、今後の図書館運営や開館時間等を検討する材料とするため ・本学構成員が簡単に意見表明できるようWebフォームを設置	・附属図書館利用者のうちの大坂大学構成員がWebフォームで意見を図書館に送付する。	○	○	-	○	○	-		-	・意見は、回答とともにWebサイトに掲示する場合がある(個人が特定される情報は掲載しない)。なお、当該Webサイトは作成中。 ・(学外公表ではないが)回答を希望する意見投稿者には必ず回答している。	・重要案件については部局構成員に周知するとともに、館長・副館長会議等に報告している。 ・収集した意見を図書館サービス方針等に反映している。	在学生/教員/職員
附属図書館	各館利用者の意見を聴取するための「ご意見箱」	通年	令和6年度	令和7年度	・附属図書館利用者のニーズを把握し、今後の図書館運営や開館時間を検討する材料とするため ・附属図書館各館利用者が図書館に対する意見を館内に記入・投函できるよう「ご意見箱」を設置	・総合図書館、生命科学図書館、理工学図書館、外国学図書館において、利用者が意見を所定用紙に記入し「ご意見箱」に投函する。	○	○	-	○	○	-		-	・意見の学外公表はしない。 ・(学外公表ではないが)回答を希望する利用者には必ず回答している。	・重要案件については部局構成員に周知するとともに、館長・副館長会議等に報告している。 ・収集した意見を図書館サービス方針等に反映している。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/回答不要で無記名の場合あり
医学部附属病院	患者満足度調査	年1回	令和6年度	令和7年度	患者さんからの意見を聴取し、患者サービスの改善につなげるため	外来患者と入院患者を対象にアンケート用紙を配布し実施	-	-	-	-	-	○		-	・院内刊行物「阪大病院ニュース」および病院HPにて結果概要を公表している。	アンケートに対する回答を院内で共有し、病院運営に活用する。	患者さん
歯学部附属病院	キャンサーボード	週1回	令和6年度	令和7年度	歯学部附属病院口腔がんセンター運営委員会規程第8条に基づき、がん患者の症状、状態及び治療方針等について、意見交換、情報共有、検討又は確認を行う。	がん患者の症状、状態及び治療方針等について、意見交換、情報共有、検討又は確認を行う。	-	-	-	-	-	○		-	-	治療に伴う症状の経過について、確認を行い、適切な治療方法の検討を行う。	職員
微生物病研究所	所内構成員対象アンケート調査の実施	随時	令和6年度	令和7年度	総長・理事等による部局運営方針等ヒアリングをはじめとする研究所評価・報告に所内構成員の意見を反映させるため	所内構成員に対してFormsを用いたWEBアンケートを実施	○	○	-	-	○	-	評価・報告資料の充実	-	-	アンケート結果は執行部で共有し、問題点の洗い出しやニーズの把握を行っている。	教員/職員
微生物病研究所	インターネット調査を活用した社会意識の可視化	随時	令和6年度	令和7年度	研究所広報・アウトリーチ活動企画運営にあたり、社会のニーズを把握するため。	WEBアンケートを用いた社会調査	-	-	○	-	-	-		-	-	アンケート結果を公式HPおよび研究所主催企画内容に反映させている。	すべて
微生物病研究所	微生物病研究所ホームページ	年1回	令和6年度	令和7年度	研究所における研究成果・共同利用施設として提供内容を発信。	Web公開	○	○	○	○	○	-		-	-	意見等への対応検討、Googleアナリティクス設置によるアクセス解析結果を内容に反映	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/すべて
微生物病研究所	微研ミュージアムアンケート	通年	令和6年度	令和7年度	地域の人々との交流促進と、ミュージアム展示物改善案に反映させるため	QRコードを設置、WEBフォームに入力			○					-	-	アンケートに対する回答を企画担当者間で共有し、知見を活用しその後の活動に反映する。	地域住民
微生物病研究所	微生物病研究所アウトリーチ企画アンケート	随時	令和6年度	令和7年度	次回企画・立案に反映させるため	QRコードを設置、WEBフォームに入力			○					-	-	アンケートに対する回答を企画担当者間で共有し、知見を活用しその後の活動に反映する。	企画参加者
産業科学研究所	企業との懇談会	年に複数回	令和6年度	令和7年度	企業幹部(CTO)、実務者からの客観的な意見を得ることで、組織における研究活動および産学連携、共創活動のアップデートに反映させるため。	(一財)大阪大学産業科学研究協会と連携し、当研究所の研究活動内容を説明したうえで、企業関係者から意見を求める。	○	○	○	-	-	-	産学共創・社会実装	-	-	懇談内容、意見等は戦略室および関連教員にて共有され、有効・有用な事項・提案があれば、研究活動および産学連携活動の向上のための施策を検討するようしている。	卒業生/企業関係者
蛋白質研究所	・共同利用・共同研究拠点に係る申請課題の選考等について審議する。 ・指導・助言をもとに改善方策を行う。	年8~10回	令和6年度	令和7年度	所長の諮問に応じ、研究所の共同研究に関する次の事項を審議する。 (1) 募集員の募集及び選考に関すること。 (2) 共同研究員・国際共同研究及びセミナーの募集及び選考に関すること。 (3) その他共同利用・共同研究に関する重要な事項。	共同利用・共同研究拠点に係る申請課題・検討事項を提示したうえで審議する。	-	○	○	○	○	○		蛋白質研究所専門委員会議事要旨	-	公募の進め方や選考の進め方などについての助言があれば、教授会等に報告し、対応が必要な事項があれば、所内にて改善・向上を実施する。	教員/学外の学識経験者

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
蛋白質研究所	指導・助言をもとに改善方策を行つ。	年4~6回	令和6年度	令和7年度	・所長の諮問に応じ、研究所及び蛋白質研究共同利用・共同研究拠点の運営に関する重要事項について指導及び助言する。	・教員人事、共同利用・共同研究拠点活動内容を提示したうえで、評価、指導・助言を受ける。	○	○	○	○	○	-		蛋白質研究所運営協議会議事要旨	-	結果は教授会報告し、対応が必要な事項があれば、所内にて改善・向上を実施する。また、対応状況は次回以降の本協議会にて確認する。	教員/学外の学識経験者
接合科学研究所	産学連携シンポジウムにおけるアンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	産業界の研究者・技術者コミュニティへ向けて本研究所の研究シーズを発信し、産業界のニーズとのマッチングを図る。	広く参加者を募るとともに、アンケートにより研究シーズに対する評価や、産業界のニーズを把握する。	-	○	○	-	-	-		-	-	アンケート結果は所員会で報告して研究者の今後の研究活動の参考となるように共有するとともに、必要に応じて研究所全体の研究活動および産学連携活動の施策への反映を検討する。	企業関係者
接合科学研究所	東京セミナーにおけるアンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	産業界の研究者・技術者コミュニティへ向けて本研究所の研究シーズを発信し、産業界のニーズとのマッチングを図る。	広く参加者を募るとともに、アンケートにより研究シーズに対する評価や、産業界のニーズを把握する。	-	○	○	-	-	-		-	-	アンケート結果は所員会で報告して研究者の今後の研究活動の参考となるように共有するとともに、必要に応じて研究所全体の研究活動および産学連携活動の施策への反映を検討する。	企業関係者
接合科学研究所	出島コンソーシアム・セミナーにおけるアンケート	年3回	令和6年度	令和7年度	出島コンソーシアム・企業会員へ向けて六研出島プロジェクトの研究シーズを発信し、産業界のニーズとのマッチングを図る。	広く参加者を募るとともに、アンケートにより研究シーズに対する評価や、産業界のニーズを把握する。	-	○	○	-	-	-		-	-	アンケート結果は、必要に応じて研究活動および産学連携活動の施策への反映を検討する。	企業関係者
国際教育交流センター	部局訪問	必要に応じて実施	令和4年度	-	全学組織として各部局の留学生相談室等や専門教育教員と連携して本学留学生を面接・心理面を含め様々な形でサポートし、広範な日本語プログラムを提供するとともに、学生交流の促進のための各種受入・派遣プログラムのコーディネート、留学生や教職員からの個別のケースへの相談対応とサポート、サポートオフィスにおける留学生や外国人研究者への宿舎の情報提供やビザ取得の手続き支援などの業務を行っており、グローバルなキャンパスの実現及び学生交流の一層の活性化に向けた課題の把握や学内連携強化に向けた意見・情報交換を目的としている。	センター長及びセンター教員1名が部局を訪問し、部局長、部局から選出された国際交流委員、留学生担当教職員等の関係者と意見・情報交換を実施する。	○	-	-	○	-			-	-	部局からの意見・質問等をセンターに持ち帰り、対応・改善策を検討の上、部局に回答するとともに、全ての訪問部局への情報共有、各学部・研究科から委員が選出されているセンター教授会での報告も行っている。 一部、センターのみで対応できない意見・質問等については、本部関連部署等と連携・確認の上回答している。	在学生/教員/職員
生物工学国際交流センター	生物工学国際交流センター関連元教員などからの意見聴取(不定期)	年1回	令和6年度	令和7年度	外部からの客観的な意見・評価・要望・提案を得ることで、組織の施策に反映させるため	対面、オンライン、訪問などを利用した協議	○	○	○	○	-	-		-	-	生物工学国際交流センター関係者交流会および意見交換会にて意見等への対応検討	元教員、海外客員教授、研修講座修了生
キャンパスライフ健康支援・相談センター	HaCC保健管理部門利用者のアンケート調査の実施	必要に応じて実施	令和6年度	未定(アンケートで得られた意見を基にした各種対策を実施した後の適切なタイミングで施行する予定)	HaCC利用者からの意見・感想・要望を分析することにより、業務改善に資する企画・立案を行うため	HaCC保健管理部門利用者に対して、WEBを通じてアンケートを実施	-	-	-	-	-	-	HaCC保健管理部門が大阪大学の構成員提供している業務	-	-	HaCC保健管理部門利用者の安全性や利便性に関わる要望については即時対応が可能なものについては対応した。対応に時間や検討をする案件については、令和7年度にかけて取り組んでいく。	在学生/教員/職員
日本語日本文化教育センター	学務委員会における各教育プログラム(学部留学生プログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラム、メイプル・プログラム、大阪大学ファンデーションプログラム、大阪・マピドン連携短期留学日本語日本文化特別プログラム)の学生を対象とした教育活動アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	各教育プログラムの教育の改善と内容の充実を図るために、各プログラムの終了時に、所属学生を対象としたアンケートを実施している。	各プログラムの終了時(学部留学生プログラム・大阪大学ファウンデーションプログラムは2月、日本語・日本文化研修留学生プログラム・メイプルプログラム・大阪・マピドン連携短期留学日本語日本文化特別プログラムは7月)に、画面ないしオンラインでアンケートを実施する。アンケート結果の概要については、学務委員会、教授会で報告を行う。	○	-	-	○	○	-		-	-	学務委員会、教授会での報告の際に指摘された問題点を踏まえ、各プログラムの担当者が改善を行なう。	在学生

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
日本語日本文化教育センター	総務委員会における、所属学生を対象とした教育環境アンケート	年2回	令和6年度	令和7年度	日本語日本文化教育センターの学生向け設備(教室、図書室など)について、修了した学生を対象にアンケートを行うことで、設備の利便性や問題点を把握し、継続的な改善を行っている。	各プログラムの終了時(学部留学生プログラム・大阪大学ファウンデーションプログラムは2月、日本語・日本文化研修留学生プログラム・メイプルプログラム、大阪・マビドン連携短期留学日本語日本文化特別プログラムは7月)に、書面ないしオンラインでアンケートを実施する。アンケート結果の概要については、総務委員会、教授会で報告を行う。	○	-	-	○	○	-	-	-	-	総務委員会、教授会での報告の際に指摘された問題点を踏まえ、各プログラムの担当者が改善を行う。	在学生
エマージングサイエンスデザインR³センター	「大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム・理事会」からの意見収集	年4回	令和6年度	令和7年度	本理事会は、一般社団法人ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム・定款により設置・開催されているものである。ステークホルダー(企業)から意見・評価を定期的に収集して、特に、本センターが提供する人材育成プログラム・社会人教育プログラムの質の保証と向上に反映させる。	・本センターが新規に、あるいは本理事会(ステークホルダー(企業))からの要望を受けて、社会人教育プログラムの向上を目指す方策を提案して、調査およびステークホルダー(企業)との意見交換を経て具体化・実施を目指す。 ・構成は、理事13名(企業関係者8名、大阪大学関係者5名、うち代表理事1名は大阪大学関係者)、監事2名、うち1名は大阪大学関係者)である(令和6年度)。	○	○	○	○	○	-	-	-	-	・本理事会の要望を受けて、社会人教育プログラムの改善策を本センターより提案して、本理事会における議論を経て両者の合意のもとで実施案を策定する。 ・改善策の実施後における教育効果や受講生の反応について本理事会の開催時に情報共有することで、さらに良い社会人教育プログラムの提案と実施に繋げる。以上より、今後も、本センターが財務的に自立しながら、社会人教育プログラムの提供を継続させるための方策の策定に主体的に寄与する。	企業関係者
エマージングサイエンスデザインR³センター	大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム・企画運営委員会からの意見収集	年4回	令和6年度	令和7年度	本委員会は、一般社団法人ナノ理工学人材育成産学コンソーシアムにおいて、1)教育カリキュラム、2)研究開発、3)調査・広報について企画・運営を担当するものである。本委員会と定期的に実務的な意見交換を行い、本センターが提供する人材育成プログラム、特に社会人教育プログラムの質の保証と向上に反映させる。	・本センターが新規に、あるいは本委員会を通してステークホルダー(企業)からの要望を受けて企画する人材育成の提案について、ステークホルダー(企業)との実務的な意見交換を経て具体化・実施を目指す。 ・委員13名の構成は、企業関係者6名、大阪大学関係者7名である(令和6年度)。	○	○	○	○	-	-	-	-	-	・本委員会における議論を踏まえて実施した社会人教育プログラムの改善の結果は、本委員会と情報共有することで、さらなる改善に寄与する。 ・さらに、本委員会での実務的な議論は適宜、質の保証を所掌する「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム実施委員会」および「エマージングサイエンスデザインR³センター・教職員会議」にフィードバックされることで、同所掌会議体の構成員が、社会人教育の現在の課題の理解と対応を継続する。	企業関係者
知的基盤総合センター	知的財産法プログラムのカリキュラム改定に向けたヒアリング	H31年度のみ実施	令和元年度	-	第4期中期目標期間に向けた、知的財産法プログラムのカリキュラム改定のためのニーズ調査。	日本知的財産協会関西事務所・日本弁理士会関西会及び在阪弁護士にヒアリングを行い、知的財産法分野の教育ニーズを聴取する。	○	-	-	-	-	-	-	-	ヒアリング結果を知的基盤総合センター内で共有し、2021年度からの新カリキュラムの策定に当たっての参考にした。	卒業生/企業関係者/在阪弁護士	
知的基盤総合センター	法学研究科学生アンケート	年2回	令和6年度	令和7年度	学生の意見等を把握し、教務事項の評価・改善を行ったため	学生に対してWEBを通じて「授業評価アンケート」を実施する際に、授業に関する質問を行う以外に、大学一般に関する要望を自由記述で聴取している。	○	-	-	-	-	-	-	学生アンケート結果(全体結果は法学研究科教務委員会、教授会でも回覧)	学生アンケートの結果については、法学研究科教務委員長がWEB上で確認するほか、教務委員会でも全体の結果を確認して対応を検討し、適宜、改善・向上を実施している。教授会でも全体の結果を確認し、教務委員長から教務委員会の対応について説明している。対応状況は、教務委員会にて適宜、確認している。	在学生	

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
核物理研究センター	核物理研究センター運営委員会	年3回	令和6年度	令和7年度	本センターは国際共同利用・共同研究拠点に認定されており、国内外の多くの研究者と共同研究を実施している。外部からの意見を取り入れ組織の施策に反映させるため、本センターの運営全般について審議する運営委員会は、委員総数の1/2以上を学外委員としており、原子核物理コミュニティ及び関連する分野の方に参加いただき、ご意見をいただいている。	毎年3回委員会を開催し、本センターの運営全般に関する審議及びご意見をいただいている。	○	○	○	○	○	-		-	-	運営委員会の議事内容を授業会で報告し、対応が必要な事項があれば改善・向上を実施している。	原子核物理コミュニティ及び関連分野の研究者
D3センター	D3センターホームページでの意見聴取	随時	令和6年度	令和7年度	全国共同利用施設、および大学内外の情報基盤を支える施設としての広報	Web公開	○	○	○	○	○	-		-	-	意見等への対応検討	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/すべて
D3センター	高性能計算機システム委員会	年2回	令和6年度	令和7年度	以下について審議し、その企画等に当たる。 (1) 高性能計算機システムの構築に関すること (2) 高性能計算機システムの負担金に関すること (3) 高性能計算機システムの利用促進に関すること (4) その他高性能計算機システムに関すること	オンライン募集、またはメール会議	-	○	-	-	○	-		-	-	委員会でいただいたご意見等の内容共有、対応の検討	教員
D3センター	大規模計算機システム利用者アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	大規模計算機システムの利用者に対して利用者アンケートを実施している。その他にも必要に応じて負担金制度や新システム導入に関するアフターを行っている。	Webサイトによるアンケート	-	○	-	-	○	-		-	-	頂いた意見を参考にして対応を検討する。	在学生/教員/職員//企業関係者/海外教育研究機関
免疫学フロンティア研究センター	包括連携先企業との連携協議会	年2回	令和6年度	令和7年度	包括連携契約に係る連携推進状況及び運営管理に関する事項を審議し、研究力向上を目指す。	・双方が当該期間に係る資料を作成し、それを基に質疑応答、意見交換を行う。 ・協議会終了後は議事録を作成し、共有する。	○	○	○	○	○	-		-	-	・質疑応答、意見交換により、対応が必要な事項があれば、センター内で検討し、改善・向上を行う。	教員/企業関係者
学際大学院機構	大学院副専攻プログラム／大学院等高度副プログラム 受講者懇談会(インタビュー)	年1回	令和6年度	令和7年度	プログラム履修者によるプログラムに対する感想・要望等を把握し、プログラム内容や制度などの改善の参考とするため	プログラム履修者を数名募り、座谈会形式でのインタビューを実施する。	○	-	-	-	-	-		大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムパンフレット(一部)	パンフレットの配布及び機構のホームページへの掲載 https://itgp.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/dd7008acdc651f5c7795f1ecec0efa21.pdf	聴取内容は、パンフレット内の「履修者の声」として掲載し、プログラムに興味のある学生に発信するとともに、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、次年度以降の制度に反映させている。	在学生
学際大学院機構	大学院副専攻プログラム／大学院等高度副プログラム 受講者アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	プログラム履修者の状況・要望等を把握し、プログラム内容や制度などの改善の参考とするため	プログラム修了予定者に対して、WEB(KOAN)を通してアンケートを実施する。	○	-	-	-	-	-		大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム受講者アンケート結果	-	結果はプログラム担当者間の情報交換会にて共有するとともに、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、次年度以降の制度に反映させている。	在学生
学際大学院機構	大学院副専攻プログラム／大学院等高度副プログラム 情報交換会	年1回	令和6年度	令和7年度	プログラムを提供する教職員の状況・要望等を把握し、プログラム全体の施策や制度の改善の参考とするため。また、各プログラム相互の情報交換により、各プログラムの内容の改善や協力体制の構築を促すため	プログラムを提供する教職員が直接情報交換できる場を設ける。その際、事前アンケートを実施し、結果の共有や話題提供を行う。	○	-	-	-	-	-		大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラム担当者アンケート結果	-	情報交換会開催前にアンケートを実施し、結果は、情報交換会で話題提供として共有している。また、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、必要に応じて各部局に検討結果を周知のうえ、次年度以降の制度に反映させている。	教員/職員
学際大学院機構	大学院副専攻プログラム／大学院等高度副プログラム 修了生インタビュー	年5回	令和6年度	令和7年度	プログラムでの学びが現在どのように活かされているかについてインタビューを実施し、副専攻・高度副プログラムの広報資料として活用するため	各回、プログラム修了者1名にインタビューを実施する。	○	-	-	-	-	-		大学院副専攻プログラム、大学院等高度副プログラムパンフレット(一部)	パンフレットの配布及び機構のホームページへの掲載 https://itgp.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/2025/03/dd7008acdc651f5c7795f1ecec0efa21.pdf	聴取内容は、パンフレット内の「履修者の声」として掲載し、プログラムに興味のある学生に発信するとともに、横断型教育統括部門会議で確認し、改善事項があれば部門で検討し、次年度以降の制度に反映させている。	在学生

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー			
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表			
全学教育推進機構	クラス代表懇談会	年2回	令和6年度	令和7年度	学生の状況・要望等を把握し、組織における施策に反映させるため	4月に選出された1年生クラス代表との懇談	○	-	-	-	-	-		報告書	全学教育推進機構ホームページで概要を公開している。 https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/classes-mtg/	内容に応じて関係者・構成員に周知し、対応が必要な事項は改善・向上を実施している。	在学生	
マルチリンガル教育センター	クラス代表懇談会	年2回	令和6年度	令和7年度	学生の状況・要望等を把握し、組織における施策に反映させるため	4月に選出された1年生クラス代表との懇談	○	-	-	-	-	-		報告書	全学教育推進機構ホームページで概要を公開している。 https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/classes-mtg/	内容に応じて関係者・構成員に周知し、対応が必要な事項は改善・向上を実施している。	在学生	
マルチリンガル教育センター	マルチリンガル教育連絡協議会	年1回	令和6年度	令和7年度	マルチリンガル教育の実施状況や計画について情報提供とともに、履修側部局の意見や要望を聞き取り意見交換等を行うことにより、マルチリンガル教育の質保証の体制を充実させるため	履修側部局にアンケートを実施し、それをもとに連絡協議会で議論する	○	-	-	-	-	-		-	-	聴取した履修側部局の意見や要望への対応を、運営検討委員会で検討し、必要に応じてフィードバックする。	教員	
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	男女協働参画に関するアンケート調査 ・自然科学系女子学生ネットワーク「asiam」との意見交換・アンケート調査 ・女性研究者との意見交換 ・部局長との意見交換(前身の男女協働推進センターにおける取組を含む)	随時	令和6年度	令和7年度	女性研究者増加等のため実効性のある必要な施策を検討するため	対面による聞き取り、アンケート調査	○	○	○	-	○	-	D&I	・アンケート結果 ・「ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けての提言～女性がいきいきと活躍するキャンパスへ～」 ・「ダイバーシティ&インクルージョン推進宣言」	D&IセンターHP(宣言のみ公開) https://www.di.osaka-u.ac.jp/diversity-and-inclusion-declaration/	集めた貴重なご意見を提言や宣言に集約し、全学に周知した。また、令和4年度からの新事業へと発展させ、事業展開中であり、今後施策の自己点検・改善を実施していく。提言や宣言に記載のない個別の改善事例は別紙5に記載のとおり。	在学生/教員/職員	
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	センター兼任教員を通じた部局のニーズ把握(前身の男女協働推進センターにおける取組を含む)	随時	令和6年度	令和7年度	兼任教員の本所属部局におけるD&Iに関するニーズ等をセンターに伝達し、施策に反映させるとともに、所属部局において本学のD&I推進の意識及び取組を浸透させるため	センター会議等の場で意見収集	○	○	○	○	○	-	D&I	-	-	方針策定を担うD&Iオフィスと強固に連携しながら、D&Iセンターで施策を機動的に実施(下記体制図参照) https://www.di.osaka-u.ac.jp/about/	在学生/教員/職員	
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	招へい教員との意見交換会	年1回	令和5年度	未定	D&Iセンターの招へい教員から、本学のD&Iにおける課題についてご意見をいただきため。	オンライン会議	○	○	○	○	○	-	D&I	「D&Iセンター招へい教員との意見交換会」に意見	-	関係省庁や先進的な企業等での経験を持つ招へい教員からの意見をいただき、D&Iオフィス会議及びD&Iセンター会議でも共有の上、施策検討や改善の参考としている。	教員/企業関係者/寄附者/D&Iセンター招へい教員	
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	全学一斉メールマガジンにおける教職員アンケート	令和5年度のみ(計4回)	令和5年度	未定	令和5年度のD&I強化月間の取組として、計4回にわたり全教職員に一斉配信したメールマガジンにおいて、D&Iの取組について発信するとともに、教職員からの意見・要望を吸い上げ今後の施策の参考とするため。	全教職員宛てのメールマガジン上で案内し、Web上でアンケート(Microsoft Forms)を実施	○	○	○	○	○	-	D&I	全学一斉メールマガジン結果	-	D&Iオフィス会議で共有の上、施策検討や改善の参考としている。	教員/職員	
ダイバーシティ&インクルージョンセンター	D&Iセミナー・研修における受講者アンケート	年4回程度	令和6年度	令和7年度	セミナー・研修の受講者に対する、Web上でアンケート(Microsoft Forms)を実施	セミナー・研修の受講者に対する、Web上でアンケート(Microsoft Forms)を実施	○	○	○	○	○	-	D&I	D&Iセミナー・研修受講者アンケート結果	アンケート回答の一部(セミナー・研修の感想等)について、匿名化した上でD&IセンターHP等の開催報告記事において公開している。	D&Iオフィス会議で共有の上、次年度以降のセミナー・研修のテーマ選定等の参考としている。	在学生/教員/職員/企業関係者/寄附者	
国際機構(国際教育交流センター)	国際教育交流/留学生支援連絡会	年1回	令和6年度	令和7年度	部局間の連携機能を推進するとともに、本学における留学生支援全般に対し、大学全体で取り組んでいくため、留学生に関係する教職員間で広く意見交換することを目的としている。	年に1回程度、対面またはオンラインを活用し意見・情報交換を実施している。	○			○				-	-	-	連絡会で出た部局からの意見・質問等はセンターで対応・改善が可能かを検討し、国際教育交流・留学生支援の取組改善につなげている。	教員/職員
国際機構(国際教育交流センター)	言語学習支援・多言語多文化交流促進に関する情報交換会	年2回	令和6年度	令和7年度	言語学習支援や多言語・多文化交流促進の活動を担当する教職員が集まり、それぞれの取組状況や実践上の課題について情報共有や意見交換を行うことで、部局間の連携や取組の改善に寄与することを目的としている。	年に2回(9月・3月)、オンラインを活用し意見・情報交換を実施している。	○			○	○			-	-	-	連絡会で出た部局からの意見・質問等はセンターで対応・改善が可能かを検討し、国際教育交流・留学生支援の取組改善につなげている。	教員/職員

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
21世紀懐徳堂	公開講座参加者へのアンケート	年9回	令和6年度	令和7年度	・今後の公開講座の企画・立案に反映させるため	紙媒体及びWeb上	-	-	○	-	-	-		公開講座アンケート調査結果報告書	-	結果は構成員に周知するとともに、21世紀懐徳堂公開講座企画委員会に共有し、対応策を21世紀懐徳堂運営委員会で審議している。	公開講座参加者
21世紀懐徳堂	「サイエンスアゴラin大阪」参加者へのアンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	・今後の「サイエンスアゴラin大阪」の企画・立案に反映させるため	紙媒体及びWeb上	-	-	○	-	-	-		サイエンスアゴラin大阪アンケート調査報告	-	結果は構成員に周知するとともに、21世紀懐徳堂運営委員会に共有し、対応策を審議している。	「サイエンスアゴラin大阪」参加者
情報推進本部	OUICTニュースの発行及び各施策の意見照会	年2回	令和6年度	令和7年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	情報推進本部及び情報セキュリティ本部の活動状況を学内構成員に周知し、その施策に対する理解を深めるとともに、情報セキュリティインシデント発生を防止する。併せて、掲載内容を含む活動内容や施策に対する意見をWebフォームを通じて募集し、取組内容の評価や改善に活用する。	-	-	-	-	○	-		OUICTニュース	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報推進本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
情報推進本部	D3センターホームページでの意見収集	随時	令和6年度	令和7年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	D3センターHPの問合せページにおいて、問合せ項目に「本学の情報推進に関するご意見、ご相談」等の項目を設け、本項目を選択しフォームを入力すると、直接担当にメールが送付されるよう改定した。寄せられた意見は取組内容の評価や改善に活用する。	-	-	-	-	○	-		-	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報推進本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
情報セキュリティ本部	OUICTニュースの発行及び各施策の意見照会	年2回	令和6年度	令和7年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	情報推進本部及び情報セキュリティ本部の活動状況を学内構成員に周知し、その施策に対する理解を深めるとともに、情報セキュリティインシデント発生を防止する。併せて、掲載内容を含む活動内容や施策に対する意見をWebフォームを通じて募集し、取組内容の評価や改善に活用する。	-	-	-	-	○	-		OUICTニュース	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報セキュリティ本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
情報セキュリティ本部	D3センターホームページでの意見収集	随時	令和6年度	令和7年度	各施策に対する意見を収集し、今後の施策に反映させるため	D3センターHPの問合せページにおいて、問合せ項目に「情報セキュリティに関するご意見」等の項目を設け、本項目を選択しフォームを入力すると、直接担当にメールが送付されるよう改定した。寄せられた意見は取組内容の評価や改善に活用する。	-	-	-	-	○	-		-	-	設置したWebフォームへの投稿内容のうち対応が必要な事項があれば情報セキュリティ本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	在学生/教員/職員
情報セキュリティ本部	Microsoft Teamsを利用したOU-CSIRT連絡体制による部局CSIRTからの意見聴取	随時	令和6年度	令和7年度	情報セキュリティインシデント発生時のOU-CSIRT内(本部CSIRTと部局CSIRT間)連絡ツールとしてTeamsを活用しているが、双方向からの発信が可能で部局CSIRTからの意見を常時受けられる体制となっている。	Microsoft Teamsにおける連絡体制構築	-	-	-	-	○	-		-	-	Teamsにおける部局チャネルでの投稿内容のうち、対応が必要な事項があれば情報セキュリティ本部協議会で確認し改善・向上を実施している。	教員/職員
サステナブルキャンパスオフィス	キャンパスイメージアンケートを実施し、施設の満足度調査を実施	2年に1回	令和6年度	令和8年度	学生、教職員の施設に対する満足度を把握し、施設整備の施策に反映させるため	WEBを通してアンケートを実施	-	-	-	-	-	-	キャンパスイメージアンケート	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/publications/campus/fmc	キャンパスイメージアンケート結果は、サステナブルキャンパスオフィス会議・キャンパス整備検討委員会で確認し、今後の施設整備計画立案の基礎資料としている。	在学生/教員/職員/卒業生/地域住民	
サステナブルキャンパスオフィス	キャンバススマスター プランの改訂に向けた意見交換会	必要に応じて実施	令和5年度	(次回の改訂時期およびその際に意見交換会を実施するかどうかは未定)	キャンバススマスター プランの改訂に向け、改訂方針の共有や反映すべき内容について意見徵収、意見交換を行うため	吹田・箕面地区、豊中地区で各1回オンライン会議を開催	-	-	-	-	-	-	キャンバススマスター プラン	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/publications/campus/campus_master_plan	意見交換した内容はサステナブルキャンパスオフィスで検証し、キャンバススマスター プラン改訂にかかる基礎資料としている。	教員/職員	

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組み	対象のステークホルダー	
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表	
サステナブルキャンパスオフィス	省エネルギー推進会議を開催し、全学の部局を対象に意見交換を実施	年1回	令和6年度	令和7年度	特定事業者として省エネ法の適用を受けていることから、構成員に対して省エネの取り組み方針を周知するとともに、意見交換を行うことで省エネ推進を図る。	省エネルギー推進会議を実施	-	-	-	○	-		省エネ推進会議資料	-	省エネルギー推進会議で受けたご意見は、サステナブルキャンパスオフィス環境・エネルギー管理部門会議で検証し、省エネ方策や会議資料等を改善するための基礎資料としている。	教員/職員
サステナブルキャンパスオフィス	大学ホームページにキャンバス環境に対するご意見の投稿フォームを開設	通年	令和6年度	令和7年度	・学生、教職員の施設に対するニーズを把握し、施設整備の施策に反映させるため	大学ホームページにキャンバス環境に対するご意見の投稿フォームを開設	-	-	-	-	-	キャンバス・施設整備全般	キャンバス環境へのご意見・ご提案	大学HPにて公表している。 https://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/publications/campus/environment	ご意見は、サステナブルキャンパスオフィス会議で確認すると共に、意見内容の所管事務部に連絡し検討・対応を依頼している。	在学生/教員/職員/卒業生/地域住民
ミュージアム・リンクス(適塾記念センター)	適塾見学会、適塾講座等の参加者へのアンケート	年5回程度	令和6年度	令和7年度	・今後の適塾見学会、適塾講座等の企画・立案に反映させるため	紙媒体	-	-	○	-	-		-	-	対応が必要な事項があれば、担当教員を指名して改善・向上を実施している。	教員/職員/地域住民/適塾記念会員、適塾見学会、適塾講座等の参加者
ミュージアム・リンクス(総合学術博物館)	こどもミュージアム、わくわく学習教室参加者へのアンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	・今後のこどもミュージアム、わくわく学習教室の企画・立案に反映させるため	紙媒体	-	-	○	-	-		-	-	対応が必要な事項があれば、担当委員会及び館員会議において改善・向上を検討している。	地域住民
コアファシリティ機構	・教育支援の一環として行っている工作学生実習(学科の学生実験として年間400名程度が受講)において、受講生全員に対するアンケート調査 ・研究支援の一環として運営している共用機器予約システム(研究設備・機器共通予約システム)において、利用者に対するアンケート調査	必要に応じて実施	令和6年度	令和7年度	・受講学生の感想や意見聴取 ・受講学生の抱える問題点などの把握 ・講習内容の妥当性や説明の分かりやすさ等の評価 ・実習依頼元の学科への報告として ・受講学生の傾向把握 ・研究設備・機器共通予約システムの利便性向上	・5項目のRatingと2項目自筆記入のアンケート調査 ・利用者(特に機器担当者)に対するメールによるアンケート調査	○	○	-	-	-		-	新型コロナウィルスによる方法や説明方法、安全確保などについてその都度改善している。 https://www.reno.osaka.ac.jp/archive/CRM_NL.vol15.pdf	アンケート調査を基に、実習方法や説明方法、安全確保などについてその都度改善している。 アンケート調査を基に、利便性向上に向けてその都度システム改修を行っている。	在学生/教員/職員
中之島芸術センター	展覧会・イベント等来場者へのアンケート	年10回程度	令和6年度	令和7年度	今後の展覧会・イベント等の企画・立案を行う際の基礎資料とするため。	紙媒体及びWeb上	-	-	○	-	-		-	-	結果は構成員と共有し、次回以降の展覧会・イベント等の企画・立案を行う際の基礎資料として活用する。	展覧会・イベント等の来場者
本部事務機関_企画部	Webメディア等を通じての意見収集	随時	令和6年度	令和7年度	大阪大学が社会から共感と信頼を得るため、広報活動により社会との双方のコミュニケーションのコミュニケーションを行います。Webメディア等は、社会のさまざまなステークホルダーの方々に開かれており、ご意見やご質問を頂戴しやすい仕組みです。	公式Web、ResOUなどで問い合わせフォームを開設とともに、総合案内センターとして広報課の直通電話番号を公開し常時間問い合わせを受け付けています。Webに寄せられた意見は、メールで広報課に届く仕組みになっており、適切な担当部署に繋げることで、ユーザーからの意見を大学に取り入れる窓口として機能している。	○	○	○	○	○	-	-	-	届けられた意見や問い合わせを、適切な部署につないでいる。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/在学生保護者
本部事務機関_企画部	大阪大学NewsLetter読者アンケートの実施	年2回	令和6年度	令和7年度	広報誌は、社会に向けて、大阪大学を支持していたために発行しており、様々な活動を分かりやすく紹介しています。読者アンケートは、読者に大阪大学の魅力をお届けできるようよりよい紙面づくりのために、毎号実施しています。	読者アンケートは公式Web上を経由して、Office 365 Formsにて実施している。広報誌から二次元コードでリンクできるようにしているほか、公式SNSや公式Webニュースなどでもアンケート実施の案内を送付している。	-	-	○	-	-		大阪大学NewsLetterアンケート結果	-	アンケート結果を編集会議で確認し、改善すべき点があれば、次号以降の紙面づくりに活用している。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
本部事務機構_企画部	在阪報道関係者と大阪大学との懇談会の開催を通じたメディア関係者との意見交換、意見収集	年1~2回	令和6年度	令和7年度	本学にとって重要なステークホルダーであるメディア関係者と良好な関係を構築するため、定期的に本学の教育研究、共創活動について説明するとともに、参加者と本学関係者とのフリーディスカッションの場を設けている。	年に1, 2回、メディアの皆さんに参加しやすい大阪市内の会場で開催している。本懇談会の開催を通じて、記者さんが関心をお持ちの社会的課題や研究分野などを把握することができ、本学の広報・ブランド戦略活動に活用している。	○	○	○	○	○	-	-	-	-	メディア関係者が関心をお持ちの社会的課題や研究分野などの把握を通じて、今後の広報・ブランド戦略活動に活用している。	マスコミ
本部事務機構_教育・学生支援部	学生との懇談会	3年に1回	令和5年度	令和8年度	「令和5年度 学生との懇談会の開催について」から抜粋 各学部・研究科で定めた教育目標及び3つのボリュームに基づいて実施される教育プログラム(カリキュラム)について、期待された学習成果を身につけることができたか、また、授業やカリキュラム全体に対する評価はどのようなものか、また、新型コロナウイルス感染症流行による大学生活・学習環境への影響等、到達度評価の一環として教育運営に関する様々な意見を直接学生から聴取することによって、本学における教育の内部質保証システムの構築に資する。	教員(教育担当理事・副学長、教育オフィス員、教育課程委員会委員、内部質保証専門部会委員等)と各学部・研究科の最終学年の学生との懇談会を開催し、あらかじめ示した項目に沿って(自由に)意見交換を行う。	○	-	-	-	-	-	-	令和5年度「学生との懇談会」報告書	-	結果は教育課程委員会及び教育オフィス会議で確認し、対応が必要な事項があれば、教育担当理事の判断により、所掌する組織に検討を依頼する仕組みとしている。	在学生
本部事務機構_教育・学生支援部	学生生活調査	4年に1回	令和3年度	令和7年度	本学学生の生活状況や要望を把握し、その結果を福利厚生・課外活動等の充実や改善及びこれらの施設等に役立てるための基礎資料とするもの	インターネット上でアンケート調査を実施	○	○	-	○	-	-	生活状況、健康状態、就職関係、課外活動等	大阪大学生の意識と生活 第25回学生生活調査報告書	https://www.osaka-u.ac.jp/ja/campus/life/survey	学生生活委員会にて、前回・前々回調査との比較を行い、学生生活全般について、どのように変化があるか、改善が行えるか分析を行い、学生を支援する基礎資料としている。	在学生
本部事務機構_教育・学生支援部	全学学生アンケート(入学時アンケート、在学生アンケート、卒業・修了時アンケート)	年5回 ・入学時(4月・10月) ・在学生(3月) ・卒業・修了時(9月・3月)	令和6年度	令和7年度	「大阪大学全学学生アンケートの実施に関する申合せ」から抜粋 本学学生の入学時、在学中、卒業・修了時の活動状況及び意向等を継続的に把握し、分析することによって、その結果を本学の教育の内部質保証並びに教育・研究環境の向上のため活用する。	学生に対して、WEBを通してアンケートを実施	○	-	-	-	-	-	-	全学学生アンケート結果	-	結果は教育課程委員会及び教育オフィス会議で確認し、学部及び研究科、学位プログラム、学位プログラムに準じた教育プログラムにおいて実施する教育アセスメントに活用できるよう、SLICSセンターが管理するwebサイト上から閲覧可能な仕組みとしている。	在学生
本部事務機構_教育・学生支援部	入学者の追跡調査	年1回	令和6年度	令和7年度	実施対象年次を定め、学生本人の回答及び教員の評価を収集することで、入学後の活動状況を分析し、本学の入学者選抜の改善検討に活用するため。	各学部最終年次の学生及び当該学生の評価が可能な教員を対象に、WEB上でアンケートを実施。	○	-	-	-	-	-	-	入学者追跡調査全体分析報告	-	総合型選抜・学校推薦型選抜及び一般選抜	在学生/教員
本部事務機構_教育・学生支援部	前年度実施入試の意見交換会	年1回	令和6年度	令和7年度	前年度に実施した入試について、入試委員会委員及び出題等委員から事前に意見を聴取したうえで、前年度及び現年度の委員による「入試意見交換会」を対面で開催し、意見交換を行う。	前年度の入試委員会委員及び出題等委員から事前に意見を聴取したうえで、前年度及び現年度の委員による「入試意見交換会」を対面で開催し、意見交換を行う。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	事前に聴取した意見を元に対応の是非や方法を十分検討し、可能な限り次年度以降の入試実施体制に反映している。	教員/職員
本部事務機構_教育・学生支援部	受け入れ方針に関するヒアリング	必要に応じて実施	令和5年度	必要に応じて実施	入学者選抜方法の変更等の検討を進めるにあたり、ヒアリングを通じて各学部の意向や実態をきめ細かく把握することで、より適切な制度設計を行い、新制度へのスムーズな移行につなげるため。	入学者選抜方法の変更を行なう場合等に、入試委員長、入試担当理事等が、各学部長等に対面を基本としてヒアリングを実施する。	○	-	-	-	-	-	-	-	-	ヒアリング結果は入試課にて集約の上、十分に検討して活用する。	教員/職員

<ステークホルダーからの意見聴取実施一覧>

部署名	取組名	実施周期	直近実施年度	次回実施年度	実施目的	実施方法	評価対象							改善・向上につなげる仕組	対象のステークホルダー		
							教育	研究	社会との共創	グローバル化	業務運営	病院	その他	成果物等名称	成果物等の学外公表		
本部事務機構_教育・学生支援部	オープンキャンパス参加者アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	オープンキャンパス参加者からの意見を得ることでニーズを把握し、オープンキャンパスそのものの内容改善・充実に資するとともに、高校生・高校教員・保護者等に向けた効果的な広報活動の検討材料として活用し、将来の志願者獲得に資するため。	オープンキャンパス参加者を対象に、WEB上でアンケートを実施。	○	-	-	-	-	-	-	オープンキャンパス参加者アンケート結果	-	ステューデント・ライフサイクルサポートセンターにてアンケート結果の集約・分析を行い、入試広報小委員会において全学部に共有している。加えて、ステューデント・ライフサイクルサポートセンターにおいては、オープンキャンパスアンケートデータと志願者・入学者データを連携させた分析を行い、入試広報戦略の検討材料として活用している。	高等学校教育関係者/高校生、保護者等、オープンキャンパス参加者
本部事務機構_共創推進部	「大阪大学感謝の集い」参加者アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	感謝の集いで大阪大学及び未来基金への意見や要望等を収集し業務の改善につなげるため	感謝の集い招待者(一定期間内に一定金額以上の寄附者)に対して、紙媒体またはWEBを通じてアンケートを実施	-	-	○	-	-	-	-	-	-	アンケート結果は担当部署及び共創機構ディベロップメントオフィスで共有し、問題点の洗い出しやニーズの把握を行い、次年度以降の改善に生かしている。	寄附者
本部事務機構_共創推進部	大阪大学未来基金活動報告書アンケート	年1回	令和6年度	令和7年度	未来基金活動報告書送付者から大阪大学及び未来基金への意見や要望等を収集し業務の改善につなげるため	未来基金活動報告書送付者(累計寄附金額50万円以上の寄附者)に対して、紙媒体またはWEBを通じてアンケートを実施	-	-	○	-	-	-	-	-	-	アンケート結果は担当部署及び共創機構ディベロップメントオフィスで共有し、問題点の洗い出しやニーズの把握を行い、次年度以降の改善に生かしている。	寄附者
本部事務機構_共創推進部	経済界と大阪大学との連携の場	年1回	令和6年度	令和7年度	経済界と大阪大学が社会の課題を共有し、課題の解決と新たな価値を社会に創造するコミュニティを形成し、対話を促した共創により生み出される「新しい価値」「進化する知」を社会の変革につなげる	国内のトップ企業の経営層と大学執行部が対話形式で意見交換を行う。	-	-	○	-	-	-	-	-	-	本学と経済界との「組織対組織」の継続的な繋がりを通じて本学の教育・研究・社会貢献についての企業経営層の理解を深めるとともに、対話の内容を今後の大学経営に活かす。	企業関係者
本部事務機構_財務部	学寮アンケートの実施	必要に応じて実施	令和4年度	-	学寮の入居者からの意見を得ることで、学寮の環境改善等に資するため。また、今後の学寮再編計画の検討に資するため	学寮の入居者に対して、WEBを通してアンケートを実施	-	-	-	-	○	-	-	-	-	回答内容を元に、対象事項を精査し、改善を行うとともに、今後の学寮再編により新設する寮の仕様を決定するための参考資料として活用している。	在学生
本部事務機構_財務部	駐車場問題に関するアンケート調査の実施	必要に応じて実施	令和4年度	-	キャンパス内の交通環境問題と、教職員の通勤手段という身近な問題に対する施策の企画・立案の重要な基礎資料とするため	教職員に対して、WEBを通してアンケートを実施	-	-	-	-	○	-	-	-	-	結果を参考とした施策の企画・立案を行ったための基礎資料として活用する。	教員/職員
本部事務機構_統括理事才フイス	統合報告書に関するアンケート調査の実施	随時	令和6年度	-	統合報告書の読者からの意見、感想、要望を得ることで、今後の統合報告書の改善、充実等に資するため	統合報告書の読者に対して、WEBを通してアンケートを実施	-	-	-	-	-	-	統合報告書の充実	-	アンケートに対する回答を執行部、関係部署、統合報告書作成チームで共有し、統合報告書の充実した誌面作りに活用する。	在学生/教員/職員/卒業生/企業関係者/寄附者/投資家/高校等教育関係者/地域住民/自治体/海外教育研究機関/マスコミ/高校生・受験生、在学生の保護者	